

II. 先天性心疾患に対する非侵襲的検査のみの手術症例の割合

心臓カテーテル造影検査は、先天性心疾患をはじめとする小児循環器領域の疾患の診断・病態の把握・治療方針決定のために重要な検査法であり、本邦のほとんどの施設でおこなわれている。また、最近では検査と同時にカテーテル治療も施行されている。しかし侵襲的検査法や治療なので、ある頻度で合併症が生ずることが報告されている。この合併症は検査や治療の性質上、無にはできない。しかし最近の心エコー検査・CT・MRI・核医学などの非侵襲的検査法の進歩により、リスクのある心臓カテーテル造影検査なしで、先天性心疾患の根本的治療である手術することも可能となってきた。そこで心臓カテーテル造影検査の適応を厳密にする、また合併症が生じることを考慮したシステム構築により合併症の頻度を少なくできる可能性があり、安全な医療という面で有用な指標となりうる。

【当院の定義】

- 「先天性心疾患に対する手術」 - 未熟児PDAを含めた先天性心疾患での姑息手術・根治手術（心内修復術）
- 「非侵襲的な検査のみの手術」 - 術前に心臓カテーテル造影検査なしで実施した手術

【当院の計算方法】

- 分子：ア) 非侵襲的検査のみの手術件数
- 分母：イ) 先天性心疾患手術件数

【当院の数値】

	項目別	ア) 非侵襲的検査のみの手術		イ) 先天性心疾患手術		非侵襲的検査のみの割合	
		姑息手術	根治手術	姑息手術	根治手術	姑息手術	根治手術
2011年	項目別	14	15	24	57	58.3%	26.3%
	全件	29		81		35.8%	
2012年	項目別	13	24	21	63	61.9%	38.1%
	全件	37		84		44.0%	
2013年	項目別	20	25	35	55	57.1%	45.5%
	全件	45		90		50.0%	
2014年	項目別	16	19	29	48	55.2%	39.6%
	全件	35		77		45.5%	
2015年	項目別	13	35	23	68	56.5%	51.5%
	全件	48		91		52.7%	
2016年	項目別	10	27	18	58	55.6%	46.6%
	全件	37		76		48.7%	
2017年	項目別	11	27	16	58	68.8%	46.6%
	全件	38		74		51.4%	
2018年	項目別	9	31	17	60	52.9%	51.7%
	全件	40		77		51.9%	
2019年	項目別	6	26	12	55	50.0%	47.3%
	全件	32		67		47.8%	
2020年	項目別	10	23	11	54	90.9%	42.6%
	全件	33		65		50.8%	
2021年	項目別	8	26	14	54	57.1%	48.1%
	全件	34		68		50.0%	